

令和6年度 北見カトリック学園 北見藤幼稚園 学校評価

1.教育目標

- ・神様の愛の中で、周りの人に愛されているという実感を持つと共に、誰をも愛する心を育む。
- ・目には見えない神様を信じる心や周囲の環境や自然を通して神様の偉大さ、自然の不思議さに気づき、恵みに感謝する。
- ・自分や周りの人を大切に、共に生きていく事の喜びや規律の大切さを育む。
- ・幼児が自分の良さや可能性を信じて様々な人と関わりながら元気に遊び、環境を通して良く考える力自分から積極的に行動出来る生きる力を育む。

2. 教育目標達成に向けての6年度の重点

- (1)カトリック幼稚園としての教育的使命を理解し、教育生活の中で実践出来る教師を目指す。
- (2)幼児が主体的な遊びを通して様々な体験や心動かす経験をし、創造力・豊かな感性を育む為の環境を惜しみなく提供する。
- (3)四季を通して、豊かな自然に触れ神を身近に感じながら感謝する心を持つ。
- (4)統合保育を通して園児が相互に関わりながら互いの存在を認め合い、優しさや思いやりの心を持つ。
- (5)自己肯定感が持てるよう1人の人間として尊重し、心の育ちと体の育ちを大切に见守る。

3. 評価項目の達成状況

評価項目	結果	理由
教育内容・環境の充実と計画性	3.5	指導計画の甘さや、チームで組んでいる担当同士の連携がスムーズに出来ていない場面があった。
保育の充実と園児との関わり	3.7	保育者の指示・指導型にならないよう、園児の主体的な活動を心掛けた。子ども会議での発言なども、多く取り入れているクラスの園児は良く意見を述べられるなど、各クラスのでどれだけ行っているか、取り組み方や経験、体験の度合によって違った。
安全管理	3.7	不審者への対策として玄関の施錠が徹底出来なかった。未就園児教室の出入りの時間を徹底していく。安全点検の書式が変更され、毎月の点検が行われることで、いち早く、危険箇所を見つけ、修繕や補修をすることが出来た。
地域の幼児教育機関としての役割	3.2	子育て支援講座や未就園児教室の内容を町内回覧板を用いて周知したが、思うように集客は伸びなかった。他園の教室を併用している保護者が多い為、自園の特色を生かした取り組みを図る。
教員の資質・能力向上	3.5	園内研修への取り組み方を変え、短時間でも回数を行えるようにすることで、定例化が図れた。公開保育で得たワークショップ型の研修も職員の主体性が発揮される事がとても感じられた為、実践していく。
保護者との連携	3.7	ICTシステムの利便性の高さは職員にとっても仕事の効率化に繋がっているが、必要な場面での保護者との対話を疎かにしてしまい、信頼関係が希薄になりがちであった。

※結果の表示方法 4 十分達成されている 3 やや達成されている 2 あまり達成されていない 1 取り組まれている

4. 6年度の総評

結果	理由
3.5	・保育経験の豊富な職員や、中堅も多く、保育ではない分野が違う職員も園に在籍していることで、様々な意見交換が出来、志高く、皆が一丸となって職務にあたる事が出来た。 ・幼小接続の第一歩として、小学校管理職(教頭)の講話を実現させることが出来た。 ・地域への発信を狭い範囲の中でしか行わずに満足していたため、今後は情報発信として、ブログやチラシなど活用して更に園の情報を広めていく。 ・子育てをしながらの就労職員が大半をしめている為、突発的な休みや変更など、交代する際は、子どものいない職員や、時間に融通の利く職員に頼りがちになっていた。

5. 来年度に向けての課題

- ・課外活動の取り組みが開始にあたり、園内に外部の人間の出入りがある為、安全管理の徹底を行う。同じく、未就園児教室の時間内での出入りに玄関の施錠の徹底が出来ていない。不測の事態に対応出来るよう、登園管理を工夫していく。
- ・ICTの活用で、保護者間との連絡連携がスムーズな反面、保護者への対応が疎かになりがちである。直接の対話を出来る限り心掛け、保護者の子育ての中での困り感や、悩みなどをしっかりと受け止めたり、気づく心を持つ。
- ・働く保護者の思い、ニーズに応える中で、園行事の在り方の見直しを図る。
- ・補助職員の動きを工夫し、正規職員が出来る限り揃って研修に参加出来るようにすることや、研修のやり方を見直し、短時間で効率の良い研修の定着を目指す。